

(様式6-3)

研修等 報告書

2017年8月25日

三田市議会議長 平野 菅子 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	日本共産党三田市議団	代表者	長谷川美樹	■
		議員名	長尾明憲	■
参加者氏名	長尾 明憲 ■			
講演会等研修名	議会広報セミナー			
研修事項	(株) 地方議会総合研究所主催研究セミナー 目に見えて進む広報改革～かつての「常識に」大きな変化～ もっと読まれる広報誌へ～制作ノウハウとクリニック～ 講師：エディター・広報アナリスト 吉村 潔 氏			
日 時	2017年7月26日(水曜日)～ 2017年7月27日(木曜日)			
場 所	アットビジネスセンター池袋駅前別館(東京都豊島区)			
所 見	別途添付			
添付資料	・ ・ ・ ・			

6 添付書類(講演会内容のパンフレット等)
交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、参加者氏名は不要)

2017年7月27日

●議会広報の現状と課題

そもそも届いていない、手に入らない場合。まずは届けること。
現状では議会だよりが議会情報を得る最大の手段となっている。
議会だよりからネットワークメディアにアプローチできる方法(=QRコードなど)を。
ネット関連は今では反応は少なくとも上げていく必要がある。
→その理由として

60~70代のネット利用が増加している。今後ネットは
5G/IoT 第五世代、Internet of Things (ネットに様々なものを接続すること)
政府は国家戦略として世界のトップを行く環境を作ろうとしている。
様々なものがネットにつながるようになっていく。キーポイントはスマホ。

前例踏襲ではなく、新しいコンテンツを。
先進事例から見ると「特集が充実している。市の団体と議員との対談。市民と議会との接点
を持ったらどうか。」

ネットの速報性や新聞報道にはない情報の付加価値をつけて発行。
ワンストップで理解できる情報の発信を。
議会運営の流れをそのままなぞって出すのではだめ。情報を編集してわかりやすくする
必要がある。議会だよりでしか読めない情報の発信の仕方。

広報活動の羅針盤を持つ。

在任中の目標：数値化できるものと数値化できないもの

対象：もっと関心を持ってほしい読者層は？

年配は何もしなくても比較的読む。それ以外の読んでほしい人にどう届けるか。

読者の反応は知る努力が必要。定期的にアンケートを取り、ニーズを把握。

議会HPは文字情報が多く、また見たいと思う作りを変える必要がある。

●何がどう変わってきたのか

議事や議会活性化の見える化

情報を住民目線で選択・整理して発信

重要案件は議決に至るプロセスを示す。どう決まったか。

特集・定例会以外の情報の充実

事業評価と決算・予算のサイクル化

住民参加型広報の拡充

手に取り、読みたくなる紙面のビジュアル化 視覚的に認知できる情報発信を。

紙媒体と電子メディアの連携

特集記事先進事例：

豊橋市：特集でテーマを決め、そのテーマに沿った議案などを載せる。

古賀市：調査研究を提言につなげ、調査結果などを載せる。

「議会が活性化しないと広報だけががんばってもできない！」

利府町：各常任委員会から年1回、提言書を提出、それを記事に。

西脇市：各常任委員会の振り返り、委員長にインタビュー。

軽米町：2年間の一般質問の傾向を掲載。

埴町：専門家へのインタビュー。専門家の知識を市民と共有する。

定例会号 先進事例：

久慈市：議案を絞り込み、ワンストップで解説。

芦屋市：市民に関心の高い議案を質疑込みで紹介。

予算・決算号 先進事例：

行政情報と差別化する必要あり。

亀岡市：議会の評価・意見を「主語」にする。

事業評価・提言 先進事例：

守谷市：事業評価の根拠、経過を記載。書類を市長に渡す写真だけだと経過が見えない。

一般質問 先進事例：

金ヶ崎市：議員の自己分析を掲載。つぶやきも。

仙北市：編集委員名を明記。客観性を担保している。

議会構成 先進事例：

多摩市：会派を軸にした紹介。動画でより詳細の紹介も。

連載で会派通信を出している自治体も。

連載：議会からの問題提起、シリーズで訴求するテーマ設定

庄内町：議会からの問題提起、例：合併特例債について

●住民参加が議会を活性化する

久慈市：広報誌の企画として地域との課題共有を行う。

議会が地域の人と接することで、議会を認知する。実施する意義は大きい。

ふじみ野市：予算への住民意見をインタビューして掲載。

寄居町：子育て支援策への意見を聞く。議会が積極的に街にでてインタビュー。

大刀洗町：議会モニターに定例会終了後に懇談会を実施。また傍聴席の声を掲載。

福島町：議会諮問会議の様子を掲載。議会のガバナンス機能も。

●議会報告会の広報を見直す

矢板市：開催目的、住民意見を政策・提言に反映させる仕組みを示す。

☆何のために行うのか。参加してもらったあとどうするのか？

情報発信のために2Pはほしい。

紫波町：集中した意見は何か、その意見をどう生かすのか、報告会の課題について市民との共有。

載せきれない情報はHPへの誘導も。QRコードなどを有効活用。

鹿嶋市：目を引く見出しで「身近さ」をアピール

久慈市：身近な参加者の声を掲載。参加意識を持たせるような記事を。

チラシ：

京都市：定例会の周知ポスターを作っている。市議会マスコットを利用し目を引くデザインに。

豊田市：市民シンポジウムを開催。参加者が多い、若い人が来る。議会報告会にこだわらず、市民と一緒に何か考える。常任委員会が参加。2部はパネルディスカッション。

●モバイルの対応強化へ

スマホとパソコンの保有世帯の差は1.2ポイントに接近

スマホの持つ個人情報端末としての意味。

QRコードでWebサイトへ誘導。議会広報誌の紙面に縛られない情報量が可能。

QRコードで個人の質問、中継サイトに誘導。

スマホに議会広報を無料配信。最近が多言語、音声読み上げ対応機能なども。

モリサワの実施しているカタログポケット。多言語、音声読み上げに対応。→若干の料金
議会のオープンデータ利用も。

●注目したい先進事例

多摩市議会：タブロイド→A4へ。情報量が増えた。写真掲載が多くできるように。議会日程をカレンダー形式で。予算審議は評価と各党派意見を見開きで。

文字ベースだが、同じトーンの色を使用し見やすい印象に。

代表質問は縦組み、一般質問は横組み。16P、バラエティーに富んだ紙面づくり。

丹波市議会：事務局との分担。実際の編集、デザインは事務局。議員が原稿、取材。できるだけ市民のところに出ていくきっかけに。

市民の関心に沿って。何が決まっただけでなく、決定までのプロセスを。

特集は議案の単位にこだわらず、テーマごとにまとめている。

委員会の枠組みだけで見る必要はない。子育て、医療、福祉は市民関心度が高い。

予算を身近に感じてもらう。

初めて議会だよりを手にとった人にもこれまで読んでいる人と同じレベルでわかる掲載の仕方を。

日本の広報誌は左とじが主流。縦組み。

今は横組みが少し出始めている感じ。数字が出てくるところは横組みのほうが読み取りやすい。

情報がしっかりと伝わるデザインを。

縦組みのなかに横組みを入れることは、情報の差別化にもなる。

表紙4色、中2色が基本でも大丈夫。

カラーを使用する場合は、ある程度の紙質が必要。

原色のブルーと赤は避けるべき。オレンジ、茶色、グリーン系は無難

赤は色弱の人が見た場合、黒っぽく見える。

午後の部

議会広報クリニック

議事・議決機関としての説明責任が果たされているか

議会活性化と広報の連携が感じ取れるか

地域課題の共有、住民参加の広報が実践されているか

定例会以外の情報が充実しているか
読者の知りたいニーズにこたえているか
進んで手に取り、読みたくなる工夫があるか

伊賀市議会：

予算がどう生かされたかのコメントがあってもよかったです。
近隣自治体との財政比較などあったら面白い。ページによって情報密度のばらつきがある。

山鹿市議会：

役所の中の管轄で記事がでているので、くくりを外しても良いのでは。
議案名だけではどのように改正されたかがわからない。議案名は小さく記載するだけで良い。どうかわったかを見出しにしたほうが良い。
総務部などのくくりをとり、一般会計予算としてくくったほうが良い。
質問の数が議員によってばらつきがあるので、議員による差をつけないほうが良い。

丹波市：

記念号は過去を振り返りがちだが、50市民の声を聴いているのは未来志向で良い。
バランスが理想的。そうばな的で無いところが良い。
視察に行った議員のコメントが載っているのが良い。関連するHPへのQRコードがあるのも良い。
政務活動費の報告もいついっくらかけて行ったが載っていて細かく良い。

佐伯市議会：

新しい議会構成 悪いわけではないが、配置が少し見づらい。
議員が参加した野球大会の様子が記事になっている。

真庭市議会：

全面写真の持つ迫力が良い。表紙に住所などいれるのはいいまいち。その点よくできている。
パンチ穴も考慮済み。議案をすべて載せるのは、今後取舍選択をしたほうが良い。
レイアウトはきれいにまとめられている。文のまとめ方が最初から読み続けなければたどりつけない。見出しなどを工夫して、知りたい情報にダイレクトに行けるほうが良い。

小松市議会：

目次項目をならべるのはおとなしすぎる。事業の中身が頭に浮かばない。議案名では中身がわからない。写真のとれるものは写真のほうが良い。

南砺市議会：

同一ページに質疑が載せれない場合は参照を使用すると良い。

時津町議会：

目次部分は少し文字が入りにくい。もう少し項目を減らしても良いのでは。

地域の子供たちのスポーツクラブを取材。親御さん、近所の人などが時津町議会だよりを知るきっかけに。

天草市議会：

ハイライトも出してわかりやすい。事業も見出しとして立っている。概要がパッと見でつかめる。

三田市議会：

市民団体に取材を行った最初期の議会。

完成度が高い。ネットでつなぐ。

視察した議員のコメントを入れても良かった。写真が同じような感じになっている。アップなどを使用して変化をつける。

安心安全な水環境。などのタイトルを使用しては？雇用につながる企業誘致は進んでいるか？

一般質問のタブ付けは良い。

足利市議会：

文字ではなく、ベースに色を付けて質疑を分けている点は良い。

予算は一年間の方向性を決めるものなので大きく議会の存在感を示せるように。

赤磐市議会：

議員の名前、小見出しなど入れると良い。見出しの条例名を中身の表示に変えたほうがわかりやすい。

利府町議会： 最優秀賞を受賞 34P だて

写真を多く、文章は簡潔に中学生も読んでもらえる議会報に。

50周年を数字と写真で見せる。段組みをうまく利用し見せる議会報に。

※ 16P が一番経済的？

※横組みの場合はプレジデントなど参考にできる。

- ※全体を通して情報密度のばらつきを出さないように
- ※文字加工はやりすぎてはだめ。
- ※一般質問は1Pに一つか二つ、多くても三つまでが良い。レイアウトを決めやすい。
- ※新しい議員体制は見開き単位でどう見せるか。
- ※議会の動きは終わったことなのであまり市民は関心を持たない。閉会中の動きなどでまとめる。もしくは他のページとのリンク付けをして興味を持たせるとよい。
- ※議会運営の手順に沿って編集すると固い。
- ※写真のとれるものは写真のほうが良い。リアルさが伝わる。
- ※議会広報誌で1枚物は基本的にはなしで。意図的にチラシなど使用する場合はあり。
- ※表紙はシンプルでインパクトのあるものに。文字がはっきり読めるように。
- ※色には意味がある。情報を識別させたりする。強調したいところに使う。
- ※見出しのフォントを揃える。
- ※人物写真は表情がわかるくらいが印象が良い。
- ※同じような写真にならないように。特に議会では引きの写真が多い。アップなども使用すると良い。
- ※モノクロで食べ物写真はあまりよくない。
- ※視察後の提言までコメントできれば Good。
- ※優先順位をつけ、論点などを示し、質疑を掲載する。
- ※できる、できないではなく、やるかやらないか。

段組みとグリッドデザイン

デザインフォーマットをつくる。レイアウトには見えない線が引かれている。

グリッドデザイン：均等に分割した格子をガイドラインにしてレイアウトする。規則的で読みやすいデザインになる。

余談：他市議会では予算審査後などに指摘事項として提言書を市長に提出しているところが多い。

●所感

今回の研修は他市の事例を見ながらの実践的な研修だった。届いていない市民にどう届けていくのか、手に取っていない市民にどう手に取ってもらうのか、比較的高齢者にはもちろんのこと、議会広報という媒体を若い世代に手に取ってもらうにはどうすれば良いかを考えさせられる研修であった。

この点については今の三田市議会広報「つなぐ」の弱いところとして、一時期子育て世代を読者ターゲットとしていたが、全世代をターゲットに変更したことにより、やはり「特に

メインターゲットをどうする」という視点が漏れていたのではないかと思う。手を広げすぎたが故の欠点にもなっていたのではないだろうか。改めて紙面を見直すとテーマについてもぶらつきがあるように思える。統一したテーマ、ターゲットを絞るなどの改修が必要であると考えます。

他市の議会広報を見る中で、特集記事については三田市で取り組んできた対談以外にも、過去の議会で取り上げられた質問を分類して紹介するなど、すぐに三田市でも取り組める内容が参考になった。しかも他市の議会報では特定の1議員や特定の議案などをトピックスとして取り上げることに恐れがない。「つなぐ」の場合は平等性を気にしすぎ（一般質問の記事分量などではもちろん必要だが）ているため、消極的な記事しか作れない状態になってしまっている。（3 常任委員会すべてを載せなければならないとか）議会でトピックスとして取り上げることができる、市民に関心の高い出来事ならば、たとえ特定の委員会のことでも紙面を割いて記事にするべきである。

また、ネットとの関係では、ARの利用については先進的な取り組みとして評価を頂いたが、QRコードの活用など他市に比べると劣っている点が気になった。

午後からの広報クリニックでは、「つなぐ」を非常に完成度が高いと評価を頂いた。特に市民との対談記事については、全国でも最初期から取り組んだ議会として紹介していただいた。この対談やインタビュー記事については午前中の講義の中でも、議会に興味のなかった市民に議会報を手にとってもらう、非常に効果の高い取り組みということで、推薦されている。インタビューをした人、その後ろにいる人に広がる有効な手段とのこと。現在「つなぐ」では対談、もしくはインタビュー形式の取り組みがストップしている状態で、この有効な議会を知ってもらう手段を復活させることは必須の取り組みであると感じる。取り組み方を見直して何としてもインタビュー記事として復活をさせたい。

「ネット DE つなぐ」、質問記事のタグについても評価を頂けたが、記事のタイトル、見出しについては、議案名などをそのまま使用するような傾向があるため非常にわかりにくい。この点は特に次号の9月発行号から見直しをかけ、目を引く見出し、見出しだけで内容が読者に想像してもらえようにしていかなければならない。

議会としてだけでなく、個々の議員の姿が見えるようなコメントを付加していくなど「つなぐ」に柔軟性を持たせることも必要だと感じた。

デザイン面でのテクニックについても多々講習をしていただいたが、読者が見たい記事は何なのか、議会の独りよがりになっていないか、一見議会と関係の無いように見える記事でも市民と議会をつなぐ役割のためには必要な場合があることなど、改めて今の「つなぐ」に不足している部分を認識でき、次号以降の「つなぐ」に反映させることのできる非常に有意義な研修であった。

議員・職員のための

議員・職員のための 議会広報セミナー in 東京



講師 吉村 潔
【エディター・広報アナリスト】

上場企業の広報を中心に大学広報、会員誌などの制作に長年携わる。
日本広報協会・広報アドバイザー。全国広報コンクール審査委員(広報紙部門・写真部門)。
町村議会広報表彰審査委員。市町村アカデミー(行政広報・議会広報)講師。著書に『実践
広報紙づくり』『広報ハンドブック～メディアづくりのノウハウ～』等がある。「月刊広報」(日
本広報協会)に「議会広報の改革はどこまで進んできたか」を連載(2014年)。「地方議
会人」(中央文化社)で「市町村議会広報クリニック」を隔月担当。

目に見えて進む広報改革 ～かつての「常識」に大きな変化～

7月27日(木) 10:00～12:30

1. 議会広報の現状と課題

- (1) 現状維持は間違いなく「後退」
- (2) 定例会のレポートでは済まない
- (3) 議会報告会の広報を見直す

2. 住民参加が広報を変える

- (1) 広報企画での広聴活動が活発化
- (2) 従来とは異なるアプローチ
- (3) 住民参加による多様な協働広報

3. 注目したい先進事例

- (1) 議会改革＝広報改革になっていない
- (2) 議会広報の先進事例 5
- (3) 刷新が急務のHPとモバイル対応

もっと読まれる広報紙へ ～制作ノウハウとクリニック～

7月27日(木) 14:00～17:00

1. 広報紙づくりのスキルアップ

- (1) 広報紙の企画・編集
- (2) 表紙デザインのコツ
- (3) 写真の撮り方・使い方
- (4) 本文レイアウトのポイント
- (5) 読まれる原稿づくりのヒント

2. クリニック

- (1) 広報紙の全体評価
- (2) コンテンツ別の評価
- (3) アドバイス

* 議会広報紙をご提供ください